

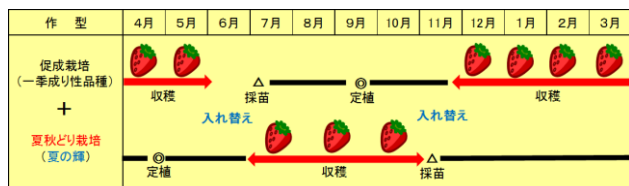
西日本でも夏秋季に安定生産できる 四季成り性イチゴ新品種「夏の輝」

わが国の夏秋季のイチゴは、業務用として安定した需要がありますが、この時期には良質な国産果実の供給量が少なく、大部分を輸入に依存しています。これは、イチゴ生産の主力となっている一季成り性品種は夏～秋の栽培には適さないことが原因です。この時期のイチゴ生産を行うためには、比較的高温（20℃前後）で昼間の時間が長い（長日）条件でも花芽（つぼみ）ができる四季成り性品種の栽培が必要です。

しかしながら、現在、栽培されている四季成り性品種は、暖地や温暖地では秋季の収量低下等の問題があり、気温の比較的低い高標高地であっても、安定生産ができませんでした。そこで、九州沖縄農業研究センターでは、暖地や温暖地における夏秋どり栽培に適した四季成り性の優良品種の育成に取り組み、この度、有望な新品種を育成しましたので、その概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 育成した「夏の輝」（写真）は、暖地の夏から秋の高温・長日条件下でも連続的に開花・結実する性質を持ち、夏秋どり栽培に適しています。
2. 果実の糖度が高く、8月から10月の収穫量が安定して多いのが特長です。また、イチゴの主要な病害である萎黄病に強く、うどんこ病、炭疽病にもある程度強く、作りやすい品種です。
3. パッドアンドファン冷却やクラウン（株元の短縮茎）部温度管理技術など高度な境制御を導入した太陽光利用型植物工場における栽培体系に、本品種を用いた夏秋どり栽培と従来からの一季成り性品種を用いた促成栽培（冬～春に収穫）を組み合わせることで、周年栽培も可能となります（図）



☆ 活用面での留意点

1. 西日本のみならず、全国の夏秋どり品種の栽培地で普及が見込まれます。
2. 農研機構と契約を結んだ種苗会社より、近日中に種苗の供給が行われる予定です。
3. 詳しいことは、九州沖縄農業研究センター イチゴ育種研究グループ ([TEL:0942-43-8362](tel:0942-43-8362)) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)